青森県立六戸高等学校

住　所　上北郡六戸町大字犬落瀬字坪毛沢二五の一六三
生徒数　男子一三二名　女子二七六名
部員数　男子二二名　女子二名
顧　問　小井川　年夫

高総体も終わり、いつもなら幹部交代の時期なのですが、今年は全く人材が欠乏しています。空手道部を存続させていくのは実に大変なことで、なまじ自分が創っただけに難儀さ一入です。その思いを奮い立たせる意味も含めて、七年間の我が部の歴史を綴ります。

私が六戸高校に赴任したのは昭和六十一年です。前任校三本木高校には十二年居て、地理的にはその隣町の高校への転勤でした。できて六年目の、文字通りの新設校で、九学級、生徒数四百、前任校に較べると$\frac{1}{3}$の学校です。男子は$\frac{1}{3}$、つまり全校あわせて百五〇名しかおらず、雰囲気的に女子高のようでした。その創設事情は次第に知れて、どうも十和田市と六戸町が競い、結果として六戸が勝利をおさめたというわけで、六戸町の肩入れ甚しく、その敷地から設備に随分六戸町の援助を受けているようでした。一方、生徒は十和田がその$\frac{2}{3}$を占めます。従って、十和田からすれば「十和田東高校」という位置づけになり、よく言えば、十和田市六戸町双方に大事にされる、悪く見れば帰属地盤の曖昧な学校とも言えます。

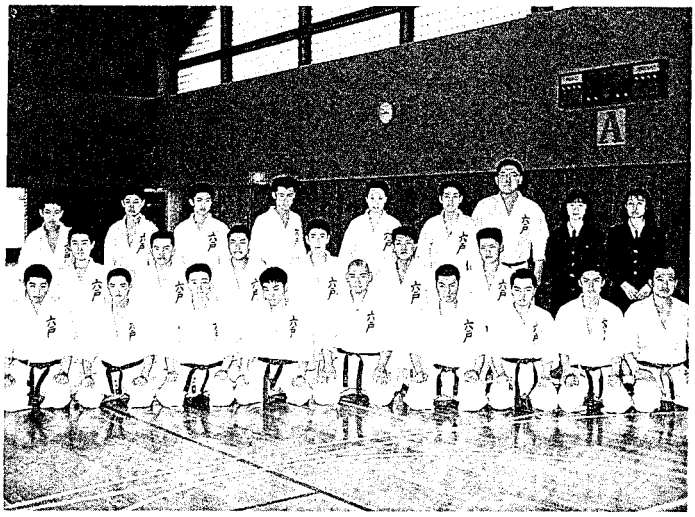
ところで、六戸町は野球熱の高い町です。その熱が直接「おらほの高校」にあたって、野球場の立派なことは県下屈指、校歌も甲子園用と言われています。その野球部の部長に、赴任早々私が任命されたことが、六戸高校に空手道部ができた原因です。

高校野球の悪口を言うと石が飛んでくるような風潮を承知の上で敢えて喧嘩を売ると、私は「甲子園」が嫌いです。その偽善、又、集団性自己陶酔と偶像化は、今や殆ど新興宗教の狂熱に似て、傍から眺めて辟易するばかりです。そして「高校野球」をそのように狂わせた責任の過半はマスコミにあり、特に朝日新聞とＮＨＫの罪は鼓して攻めて可なるべきものだと思っています。何にせよ、「甲子園」が日本人の美意識の軽薄化に加担したことは確かで、その末端組織の「部長」になるなど、まさしく青天の霹靂、驚天動地の凶事でした。いくばくもなく、胃炎になりました。痛みに苦しみながら、これから逃れるためには別な部を持つしかないと思い定め、強引に生徒を集めました。実は、転勤を機に空手をやめようと思っていました。三本木時代は恵まれた顧問生活でしたから、未練なく、そろそろ「学問」に精進しようと思ったのです。家族そろっての「足を洗って」の願いもありました。それらを一挙に打ち払ったのが、つまりは野球で、七年目の今、基本の号令を掛けながら当時を思い出せば、思い、何とも複雑です。

六十一年、愛好会は一年生八名で発足しました。会長を、久田という多少ッッパッタ生徒にし、町立体育館の御好意で毎日二時

間ほど練習する体制が始まりました。これは現在もそうで、空手道部は町立体育館に所属する運動サークルだと言えます。その七月、会員の一人が水死するというとんでもない事件が起きました。本間直樹君。練習のあと、仲間と川に泳ぎに行ってこの禍に遭ったもので、六戸高空手道の歴史上最大の痛恨事です。今あらためて、その御冥福を祈ります。

試合には秋の新人戦から出ました。勿論お話にならない結果でしたが、以後二代田中洋主将以下九名、三代古舘淳主将以下八名と、男子の少ない、しかも野球の強い学校としては安定した数の部員に恵まれ、何とか空手道部らしくなってきました。一度は春季で三位にもなりました。部員全員で、和道会の東北大会にも出かけるようになり、この遠征が部員の楽しみの一つであるようです。そして昨年、四代山内孝昭主将以下八名で、六戸町での高総体にのぞみました。それまでも数度大会場を引き受けていましたが、此時は高体連としてはじめてマットを使用し、多分そのおかげで、団体三位、個人で宮田重次が優勝しました。



ようやく「運動部」としての市民権を獲た記念すべき大会と言えます。そして六戸高校としても初のインターハイ出場、創立十周年に小さな花を添える形となりました。現在は五代沼田健主将が三年生八名、二年生三名、一年生十一名の部員を率います。（この沼田が、田中洋、宮田に続いて、三人目の東北大会出場者です。）

創立七年目の空手道部に過ぎたるものとして六戸町立体育館があげられます。バスケットの公式コートが悠々二面とれる大フロアーを持つ体育館で、普段はその半分を借用しています。（冬場は第二体育室という、武道場とすれば格好な場所を借ります。）ここで昨年は東北総体を開催しました。その際に、今年六月急逝された沼田町長の英断で四面のコートマットを備えて頂きました。

充実しているのは設備ばかりではありません。佐藤館長をはじめとして、館員の皆様には陰に陽に親身のご支援を頂戴しております。また、大会となれば、他市町村の体育館では考えられないほどの御世話にあずかっています。来年予定される東北大会も、来場者に一切不愉快な思いを抱かせないはずです。

過ぎたるものの二つ目は女子マネージャーの面々です。佐藤、荒谷コンビが初代、三年目には小笠原、四年目に苫米地、成田組、六年目に赤石、元木の二人を得ました。今までのこの七人は空手道部の宝と言ってよく、部員以上の精勤と真面目さ、そして機転を発揮してくれています。以上、つまりは恵まれた空手道部なのです。でありながら、今一つ試合成績がふるわないのは……定法に則り「顧問の不徳」と記録して、紹介を終わります。